

結晶沖繩

第 56 号

編集・発行



社会福祉法人

沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173(代)

FAX 098-882-5688

電子メールアドレス：o.fukusi@okinawa-j.jp

ホームページ：http://www.okinawa-j.jp/



完成予想イメージ図

漲水学園・あけぼの学園の改築

平成18年度の自主経営開始当初から、老朽化への対応が課題であり経営計画5ヶ年計画で全面改築を計画していた漲水学園（児童養護・知的障害児施設）・あけぼの学園（障害者支援施設）の全面改築工事が「社会福祉施設等耐震化等整備費補助金」の交付を受け、平成23年4月から着工しました。

今回の施設整備事業は、法人が事業主となり取り組む初の大型施設整備事業であり、整備費の法人負担分の課題、事業申請に伴う行政や他関係機関との調整等経験のないことだらけであり、経営計画から1年遅れの開始となりましたが関係機関の協力も頂き工事開始に至ることができました。

建物完成は平成24年3月、グラウンド・農場整備完了は平成24年6月の予定であります。完成後は、児童家庭支援センターの設置、就労支援事業の強化を行い地域に貢献する施設として事業展開を行います。

【概要】

名称：漲水学園 施設入所定員 40人
 短期入所（空床型）
 一時保護委託（空床型）
 あけぼの学園 知的障害児12人
 知的障害者30人（施設入所支援30人、
 生活介護20人、就労継続支援B型15人）

所在地：沖縄県宮古島市平良字西仲宗根

敷地面積：19,224.17㎡
 建築面積：3,708.50㎡
 床面積：3,470.50㎡

あけぼの学園：1,721.10㎡
 漲水学園：1,250.50㎡
 管理部門：498.90㎡

建物構造：鉄筋コンクリート造
 建物の工事期間：平成23年4月～平成24年3月31日

施設長
就任
あいさつ



重症心身障害児者施設 沖縄療育園
園長 平安山 英盛

今年の三月三十一日までは沖縄県立中部病院院長をしておりました。約四十年間中部病院で勤務し、主に外科と心臓血管外科を専門としてやってきました。定年退職を迎え知名前園長からお誘いもあつて園長兼経営対策監として就任いたしました。今真っ先にやるべきことは、すべての利用者さんのお名前と顔を覚え、すぐに思い浮かべられるようにすることです。お名前を連呼して呼びかけながら回診しています。認知症気味の頭で、奮闘中です。ユタシク、ウニゲーシャビラ!!

施設長
就任
あいさつ



身体障害者療護施設 都屋の里
園長 仲宗根 昌栄

私は、三十五年間、読谷村役場で業務に従事し、住民福祉向上のため努めてきました。この度、ご縁がありまして、四月一日から都屋の里の施設長を拝命いたしました。療護施設は、常時、治療、介護を要する方々の命を預かり、安全で安心して日常生活を送る環境を整えるという、重大な責務を担うものであります。また、利用者の豊かな日常生活を維持するには安定した施設経営が必要であり、職責の重大さに不安と戸惑いを感じていますが、事業団の諸先輩方のご指導と、職員の皆様との協力をお願いし、これまで、培ってきた経験を生かし、この重責を果たしたいと思っております。よろしくお願いたします。

施設長
就任
あいさつ



養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園
園長 慶田盛 誠

ご縁があり、八重山厚生園施設長を引き受けました慶田盛です。知り合いに会う度に「おめでとう」と激励されていますが、改めて当厚生園のネームバリューの大きさや地域住民の信頼の高さに、身の引き締まる思いをしています。福祉サービスは、担い手の人間性を基礎とした対人業務であることから、コミュニケーション能力を高めて、そして、チーム力がしっかり生きる施設運営を心掛けたいと考えています。先輩諸兄姉とともに、一歩づつ歩んでいければ幸いです。

平成二十三年
度

人事異動

(一) 内は前職場など

- 異動(四月一日付)
- ▼事務局 事務部長・石川俊雄(昇任)
- ▼総務課長・島仲邦康(昇任) いしみなみ救護園
- ▼経営管理課長・翁長武己(昇任)
- ▼企画課長・平良里子(昇任)
- ▼沖縄療育園 園長・平安山英盛(新規契約)
- ▼育成課長・親富祖正信(名護厚生園)
- ▼都屋の里 園長・仲宗根昌栄(新規契約)
- ▼管理課長・井口智(事務局)
- ▼よみたん救護園 管理課長・名嘉克文(昇任)
- ▼いしみなみ救護園 管理課長・田島学(八重山厚生園)
- ▼うるま婦人寮 寮長・譜久山路子(沖縄療育園)
- ▼名護厚生園 生活支援課長・比嘉克也(新規採用)
- ▼宮古厚生園 副園長・友利勝政(昇任)
- ▼八重山厚生園 園長・慶田盛誠(新規契約)
- ▼生活支援課長・砂川繁信(昇任・渚水学園)

ニューフェイス紹介



重症心身障害児者施設 沖縄療育園
看護師 平良 万紀子
今年度、新採用となり現在1病棟に勤務しています。利用者の方々が安全で安心した日常生活を送ることができるよう頑張りたいと思います。ご指導よろしくお願いたします。



障害者支援施設 あげぼの学園
事務員 與儀 みどり
平成十八年度から嘱託員として勤務し、今年正職員として採用になりました。人とのふれあいを大事にし、業務に取り組んでいきます。ご指導よろしくお願いたします。



障害者支援施設 北嶺学園
第II種介護員 垣花 優
これからも利用者の、安心・安全を心がけ、自身の向上・質の良いサービスが提供できるように頑張ります。ですのでよろしくお願いたします。



身体障害者療護施設 都屋の里
第II種介護員 山城 重力
感謝する事、謙虚である事をモットーに、何事にも一生懸命に取り組んで笑顔をお忘れず誰からも信頼される介護員になりたいと思います。ご指導よろしくお願いたします。



養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園
准看護師 大城 朝次
新採用となり今まで以上に気を引き締め、利用者の方々々が安心した生活を送れるよう日々の業務を頑張ります。



養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園
作業療法士 福地 政幸
事業団初のOTとして専門性の発揮とチーム間での潤滑油的な存在になれるよう励みます。宜しくお願いいたします。



養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園
第II種介護員 宮里 優子
本土出身の私は、沖縄の方言に戸惑いつつも、利用者様の笑顔に癒される日々を過ごし、毎日のサービスに頑張っていきたいです。



養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園
第II種介護員 安里 有莉咲
大好きな地元に戻り3年目。本年度より採用となり嬉しく思います。今後も介護職員として知識・技術を磨き努力していきます。

■ ■ ■ 平成22年度 資金収支計算書 ■ ■ ■

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日 (単位:千円)

勘定科目		決算額
大区分		
経常活動	経常収入計	4,045,431
	経常支出計	3,464,772
	経常活動資金収支差額	580,659
施設整備	施設整備等収入計	10,560
	施設整備等支出計	159,388
	施設整備等資金収支差額	△ 148,828
財務活動	財務活動等収入計	86,365
	財務活動等支出計	375,259
	財務活動等資金収支差額	△ 288,894
当期資金収支差額		142,937
前期末支払資金残高		824,215
当期末支払資金残高		967,152

注釈. 経理区分間繰入金収入・支出は省く

■ ■ ■ 平成22年度 事業活動収支計算書 ■ ■ ■

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日 (単位:千円)

勘定科目		決算額
大区分		
事業活動	事業活動収入計	4,217,675
	事業活動支出計	3,687,451
	事業活動収支差額	530,224
事業活動外	事業活動外収入計	10,769
	事業活動外支出計	0
	事業活動外収支差額	10,769
経常収支差額		540,993
特別収支	特別収入計	2,577
	特別支出計	4,196
	特別収支差額	△ 1,619
当期活動収支差額		539,374
繰越活動収支差額	前期繰越活動収支差額	1,061,309
	当期末繰越活動収支差額	1,600,683
	基本金取崩	0
	基本金組入額	0
	その他積立金取崩額	86,365
	その他の積立金積立額	360,000
次期繰越活動収支差額		1,327,048

注釈. 経理区分間繰入金収入・支出は省く

■ ■ ■ 貸借対照表 ■ ■ ■

平成23年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,171,534	流動負債	204,382
		固定負債	216,795
徴収不能引当金	△ 131	負債合計	421,177
固定資産	6,903,174	純資産の部	
基本財産	4,835,978	基本金	10,000
		国庫補助金等特別積立金	4,681,543
その他固定資産	2,067,196	その他の積立金	1,634,809
		次期繰越活動収支差額 (うち当期活動収支差額)	1,327,048 (539,374)
		純資産合計	7,653,400
資産合計	8,074,577	負債及び純資産合計	8,074,577

脚注 1. 減価償却費の累計額 754,723 千円
 2. 徴収不能引当金の額 131 千円
 3. 移行時特別積立金の不足額 千円

平成23年度 事業計画及び当初予算

事業計画 (主要事業等)

平成二十三年度は、沖縄県社会福祉事業団五カ年経営計画の四年目にあたり、経営計画推進プログラムに基づいて「利用者本位のサービスの質の向上」「経営基盤の強化」「地域貢献」に取り組んでまいります。

《経営目標達成に向けての具体的取り組み》

- 一、サービスの質の向上（信頼と安心のサービスを目指して）
 - 職員倫理綱領及び職員行動基準の周知徹底
 - 苦情解決システムの実効性のある運用
 - サービス評価の取り組み
 - リスクマネジメント体制の構築
 - 利用者の意見聴取（投書箱の有効活用）
 - 情報開示・提供体制の整備
 - ISO9001の継続運用
- 二、法人の社会機能の強化（社会的使命の遂行のために）
 - 在宅福祉事業の推進
 - 専門技能等を活かした地域福祉支援
- 三、財務基盤の安定化（自立経営の実現を目指して）
 - 予算策定
 - 経営対策監会議
 - 実績会議の開催
 - 経営分析
 - 支出管理
 - 未収金管理
 - 公益資金の積極的活用
 - 調理業務の委託
- 四、施設整備（利用者の快適生活と地域貢献を指して）
 - 各施設の機能強化及び新規事業に伴う新築・増改築
 - 老朽施設の全面改築
 - 利用者の快適生活と事故防止のための施設改修

平成23年度 資金収支予算書

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日 (単位:千円)

勘定科目		予算額
大区分		
経常活動	経常活動収入計	4,168,662
	経常活動支出計	3,672,927
	経常活動収支差額	495,735
就労支援	就労支援事業収入計	1,887
	就労支援事業支出計	4,091
	就労支援事業収支差額	△ 2,204
施設整備	施設整備等収入計	621,723
	施設整備等支出計	1,094,186
	施設整備等資金収支差額	△ 472,463
財務活動	財務活動等収入計	955,284
	財務活動等支出計	186,081
	財務活動等収支差額	769,203
当期資金収支差額		790,271
前期末支払資金残高		939,620
当期末支払資金残高		1,729,891

注釈: 会計単位間繰入金収入・支出及び経理区分間繰入金収入・支出を省く

- 五、人事管理
 - 人事管理方針の確立
 - 管理者及び専門性の育成
 - 指導力の向上
 - 福祉制度変革及び地域と密着した施設経営の構築
 - 国の緊急雇用対策の積極的活用
- 六、法人の組織強化（実効性のある組織を目指して）
 - 法人組織の整備
 - 本部事務局の機能強化
 - 内部監査の実施
 - 組織及び職員配置の弾力的対応
 - 職員の資質の向上と職場の活性化
 - 全事協九州ブロック職員研修会の開催
 - 法人設立記念事業の実施
 - 職員の経営意識の高揚
 - 広報活動の推進と関係機関との連携
 - 施設機能の地域開放
 - 関係機関との連携強化

平成22年度事業実績 (主要事業等) 及び決算報告

当事業団は平成二十年度から平成二十四年度までの五ヶ年間の「沖縄県社会福祉事業団経営計画」を策定し、実施に取り組んでいます。
平成二十二年度は経営計画三年目にあたり経営計画推進プログラムに基づいて「利用者本位のサービスの質の向上」と「経営基盤の強化」さらに「地域貢献」に取り組んでまいりました。経営計画に基づいた主要事業実績（取り組み結果）を報告します。

- 一、サービスの質の向上
 - ア、倫理綱領の周知徹底を図るため、全施設で倫理委員会を開催しました。
 - イ、「福祉サービス第三者評価」を都屋の里と八重山厚生園において受審し、サービスの質の向上に努めました。
 - ウ、北嶺学園、いしみね救護園では、リスクコンサルタントによる検証・診断や事故防止研修を実施しました。
 - エ、事務局と沖縄療育園においてISOマネジメントシステムの維持審査を受審した結果、導システムが福祉サービスの質の向上に向けて有効に運用されているとの評価を得ました。
 - 二、法人の社会機能の強化
 - ア、宮古厚生園通所介護事業所は、十一月から土曜日・祝日の事業を開始しました。
 - イ、あけぼの学園は、就労継続B型事業の実施を決定しました。
 - 三、財務基盤の安定化
 - ア、経営対策監会議では、各施設長は自らの施設課題だけでなく、同類施設の問題、法人全体の課題解決に向け積極的に情報の共有化を図り、課題解決に向けた取り組みを行いました。
 - イ、補正時や決算時には、決算見込額及び決算額を基に収支差額率、人件費比率等を算出し、施設種類別の適正値との比較等を行いました。また、利用率の改善に向けた営業日の拡大、入院対策等に経営指標を活用しました。
 - ウ、調理業務委託未実施であった沖縄療育園と漲水学園・あけぼの学園は、
 - 一部委託開始、うるま婦人寮については、利用者実態に沿い給食業務を全面委託することを決定しました。
 - 四、施設整備
 - ア、あけぼの学園、漲水学園の全面改築実施計画を策定し、耐震化等整備費補助金の交付を受け全面改築に着手しました。
 - イ、沖縄療育園では、通園事業における居室が狭く、活動が制限される部分があったので、移転整備に取り組み、三月に移転しました。
 - ウ、危険箇所の改修及び電動低床ベッド等を導入し、利用者の安全確保と快適生活の向上に努めました。
 - 五、人事管理
 - ア、管理職を対象に福祉施設長専門講座、リスクマネジャー養成講座を指名研修として実施しました。
 - イ、漲水学園の増改築と併せて児童家庭支援センターの受託について県と協議しました。
 - 六、法人の組織強化
 - ア、事業実態に沿った職員配置として夜間専属・短時間勤務職員を確保、人工呼吸器装着利用者受入のための看護・介護体制の強化を図りました。
 - イ、法人は機関紙を年二回発行、施設は沖縄療育園、いしみね救護園、具志川厚生園の発行開始により発行施設が十施設となりました。
 - ウ、地域の方々を対象に「介護教室」を開催し、リハビリ嚙下体操や高齢者の食事形態について情報を提供しました。